

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第59回本部会議 記録

日 時／令和3年6月16日（水）

15：35～16：08

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第59回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明があります。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。

主な指標の状況でございますけれども、昨日時点で、感染経路不明の割合を除きまして、前の週を下回っている状況です。特定措置区域の主な指標の状況ですが、昨日時点で、一部地域で、これも感染経路不明の割合が前の週を上回ったものがございまして、それ以外について、全て前の週を下回っているという状況です。

続いて、国の分科会提言で示されております新たな指標についてでございますけれども、全道を見ていただきますと、②療養者以外は国のステージⅣの指標を下回っております。また、①医療のひっ迫具合にあります入院と療養者数については、国のステージⅢの指標を上回っているところでございますけれども、それ以外については、全道につきましてはステージⅢを下回っている状況です。

続いて、全道の感染状況です。全道の新規感染者ですけれども、減少が続いております。昨日までの直近1週間で874人、人口10万人当たり16.5人となっております。なお、本日の全道の新規感染者数は88人ということでございまして、人口10万人当たりで見ますと15人を下回って、14.8人という状況になってございます。また、リンクなしの割合ですけれども、足元で上昇しております。昨日時点で36.6%という状況です。

札幌市の状況です。札幌市につきましても、感染状況は減少傾向でございます。10万人当たり29.4人とということで、これについては依然として高い水準となっております。また、リンクなしの割合は、足元で増加しております。40.9%という状況です。

札幌市以外の石狩振興局管内の状況ですけれども、昨日現在で10万人当たり17.1人、リンクなしの割合は23.6%です。小樽市の状況ですけれども、10万人当たり18.9人、リンクなしの割合は36.4%という状況です。引き続き、旭川市ですけれども、10万人当たり7.7人、リンクなしの割合は26.9%という状況でございます。続いて、特定措置区域と措置区域に分けて感染状況の状況を見てみますと、昨日現在で特定措置区域は、24.5と高い水準となっている状況です。また、地域別に見た感染状況ですけれども、昨日までの1週間の新規感染者数は、前の週と比べまして、一部増加している地域がございまして、減少している状況でございます。

発症日別の新規感染者数ですけれども、先月中旬にピークが来て、それから減少しているという状況になってございます。また、年代別で見ました感染者数の状況ですが、10代から30代までの若い世代は、概ね横ばいで、だいたい全体の3割をやや下回っている状況が続いております。

監視体制です。検査数については、先月下旬から減少傾向がありますけれども、直近1週間で、23,763件ということです。また、陽性率については減少が続いておりまして、昨日時点で3.7%という状況でございます。

医療提供体制等の状況ですけれども、全道の入院患者数は、今月に入って徐々に減少しておりますものの、903人と依然として高い水準でございます。また、重症患者数ですが、これについても減少傾向にあって、昨日時点で32人という状況でございます。

続いて、集団感染の発生状況です。月別で見ますと、5月は件数・人数ともに過去最多を更新しておりましたけれども、6月に入りまして、集団感染の発生は減少しておりますが、事業所や学校等での発生が続いているという状況です。また、1週間ごとの発生状況を見てみますと、ここ3週間ですけれども減少しているという状況が見て取れるかと思えます。

引き続き、ワクチンの接種状況でございます。高齢者向けのワクチンですけれども、昨日現在、1回目の接種を終了した方は、49万2千人で、全道の高齢者の方の割合に対しまして、29.7%ということで、2回目の接種を終了した方については、8万4千人で、摂取率は5.1%という状況です。また、最近の接種回数状況ですけれども、直近1週間ですが、高齢者向けのワクチンの接種回数は、19万4千回となってまして、1日平均で2万8千回という状況です。なお、週ごとの接種回数は増加しておりまして、直近1週間の1日平均を見てみますと、前の週から約4千回増加しているという状況です。

それぞれの接種の取組状況ですけれども、高齢者の方々に対しましてワクチン接種を受けていただくための環境整備として、市町村が行う集団接種に対する支援に加えまして、医療機関での個別接種や集団接種の実施の働きかけに取り組んでおります。また、札幌圏で今週土曜日、19日から集団接種会場を設置することとしておりますけれども、今週月曜日から予約受付を開始しておりまして、第1週の予約状況ですけれども、接種枠5,760件に対しまして、1,312件の受付という状況でございます。

続いて、職域接種の状況ですけれども、先週火曜日から国のウェブ申請フォームにおいて受付を開始しておりまして、昨日現在、62件の申請を受け付けているという状況です。職域接種を希望する業界団体の要請を踏まえまして、制度内容等の周知を行っておりますけれども、本日も経済関係団体との連携会議でご説明しているところでございます。

引き続き、人出の状況でございます。札幌駅の周辺の状況でございますけれども、今回の緊急事態宣言以降、減少傾向にありましたが、昼・夜ともに先月末以降、足元では増加に転じております。ただし、最近横ばいで推移しているという状況になっています。

次のスライドは、すすきの駅周辺の状況ですけれども、札幌駅周辺と同様に人流は、昼・夜ともにやや増加傾向で足元では横ばいという状況でございます。この後スライド28までは、他の主要都市についての人出の状況についてでございますけれども、今回の緊急事態宣言と比較いたしますと概ね減少しておりますが、足元で増加が見られるなどしている地域もございまして、注視していく必要があると考えております。

最後に総評です。まず、感染状況です。全道の新規感染者数ですけれども、19日連続で前週を下回っておりまして、減少傾向が続いており、10万人当たり16.5人と道の警戒ステージ4の水準となっております。特定措置区域の感染状況については、札幌市では、減少傾向が続いておりますものの、10万人当たり29.4人と道の警戒ステージ5の目安を超えて、引き続き、高い水準にあるということで、市中での感染が続いている状況です。札幌市を除く石狩振興局管内及び小樽市では、新規感染者数は道の警戒ステージ4の水準で、旭川市では道の警戒ステージ3の水準となっているという状況です。措置区域の感染者数も減

少傾向にございまして、10万人当たり7.2人と道の警戒ステージ3の水準となっています。全道の主要な地点におけます人流ですけれども、緊急事態宣言前と比較して減少しておりますが、今月に入り、増加傾向が見られる地点もあるという状況です。

医療提供体制です。全道の入院患者数、療養者数は、減少傾向が見られるものの、引き続き、高い水準でございまして、特に札幌市内におきましては、病床が満床に近く、引き続き、危機的な状況にあるという状況です。

ワクチンですけれども、高齢者への接種ですが、1回目29.7%、2回目5.1%が終了しました。直近1週間における1日当たりの接種回数は、前週よりも約4千回増加しているという状況です。職域接種についても、道内の企業・団体から、昨日現在、62件申請がありまして、国において承認作業を行っているところという状況です。

今後の対策についてです。新規感染者数の減少傾向をより確実なものとし、医療への負荷の低減につなげるため、今月20日までの間、全道域で人と人の接触を徹底して抑えるための対策を実施してまいります。特に、特定措置区域におきまして、飲食店等への見回りや普及啓発などの対策に引き続き取り組むとともに、週末に向けて、外出を控えるよう、徹底した呼びかけを行うこととしております。

引き続き、多くの方が自宅で療養されておきまして、食品や日用品セットの配付やパルスオキシメーターの貸与に加えまして、保健所による健康観察の徹底や必要に応じた在宅医療の提供など、万全の支援を行ってまいります。

19日に開始いたします北海道ワクチン接種センターの効果的な活用を図るとともに、地域の感染状況や接種状況等を見極め、柔軟な対応を行ってまいります。11月までに希望する方へのワクチン接種を終えたいとする総理発言を踏まえまして、供給スケジュールなど国から情報収集を行いながら、引き続き、市町村支援や職域接種への対応など、希望する方が、1日も早くワクチン接種を終えることができるよう取り組んでまいります。

今月21日以降の対応につきまして、札幌市内においては、引き続き、道の警戒ステージ5を超える水準にある厳しい感染状況等を踏まえまして、人と人の接触機会の低減に向けた強い対策に取り組むことが必要です。札幌市以外の地域においては新規感染者数が減少しているものの、入院患者数等が高い水準にありますことから、感染防止対策、感染リスクを回避する行動の徹底を図る必要があります。資料1の説明は以上でございます。

引き続き、資料2をご覧くださいと思います。

資料1につきまして、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体の方にも事前にお知らせしておきまして、まず、有識者、専門家の方々からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますが、その主なものについてご紹介いたしますと、

(1-①) 職員や入居者のワクチン接種が終了するまで、今一度、厳しい措置の継続が必要ではないかといったご意見。また、(1-②) 指導に従わない飲食店には行かせないような呼びかけをしてはどうかといったご意見や、その後のワクチン接種の関係ですけれども、きめ細やかに情報を収集し支援などの対応をしほしいといったご意見。また、(1-③) 集団感染対策として、ワクチンの職域接種を支援するとともに定期的なPCR検査等による感染者の早期発見と集団感染の未然防止に取り組むことも検討すべきといったご意見や、ワクチン接種の関係で、国において対象年齢を16歳から12歳以上に引き下げたことなども含めて、十分な理解が得られるよう、国はもとより道においても適切な情報発信に努めて頂きたいといったご意見。また、(1-⑤) 医療提供体制に関しましては、引き続き厳しい状況が続いており、その点を十分に伝えていかないと、既に人出が戻ってきている状況下において、人々の接触が増加することが懸念されるといったご意見や、ワクチン

接種の関係で、接種が進んでいることはありがたいが、ワクチンを打ったから大丈夫ではないことをしっかり伝えてほしいといったご意見。また、(1-⑥) 札幌市は依然高い状況であり、まん延防止等重点措置の適用が必要ではないかといった意見や、(1-⑦) 入院者数がいまだに高く、ワクチン接種を円滑に進めるため、医療機関の負担を減らすためにも、現在の外出自粛や飲食店等への対策を続けていくべきと考えるといったご意見などがあったということでございます。

また、市町村、関係団体の皆様からは、(2-①) 6月21日以降については、札幌市での措置を継続する方向で対応し、対策の実効性を高めるよう取り組むことが必要といったご意見や、ワクチン接種については、ワクチンの今後の入荷日程を速やかに周知していただきたいといったご意見をいただいております。

こうしたご意見については、今後の対策に活かしてまいりたいと考えてございます。私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明いたします。

次のスライドをご覧ください。1週間の新規感染者数の合計につきまして、5月23日に2,600人まで増加した後は減少に転じておりまして、昨日6月15日の時点で569人、人口10万人当たりで29.1人と北海道の警戒ステージ4相当の目安となる人口10万人当たり25人未満という水準に着実に近づきつつある状況でございます。

次のスライドをご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況などについてご説明いたします。昨日6月15日時点の入院患者数は437人となり、新規感染者数に減少傾向が見られる中で、入院患者数は、高止まりの状況が続いております。市内の医療機関のご協力により、入院受入可能病床は増えておりますが、実質的には使用できる病床は常にほぼ満床の状況にありまして、現在も最大の入院受入体制でご対応いただいているところでございますが、医療体制への負荷は大きく、非常に厳しい状況に変わりはありません。

次のスライドをご覧ください。検査数でございます。直近1週間の検査数は1万3735件と、新規感染者数の減少により検査数も減少傾向にあります。陽性率は昨日6月9日時点では4.1%と、国が示す指標の5%を下回る水準まで低下してまいりました。

次のスライドをご覧ください。年齢別の感染者数の割合でございますが、年代ごとの発生状況に偏りはあまりない状況になってございます。新規感染者数の減少傾向を維持させるためには、年代に関係なく、いたるところに感染の可能性があるということを意識した行動が必要ではないかと考えております。

次のスライドをご覧ください。新規感染者数の感染経路についても同様に家庭内感染の割合が減少する一方で、福祉施設や個人活動を感染経路とする割合に増加が見られてございます。

では次のスライドをご覧ください。集団感染事例でございます。全体の件数が減少しているものの、福祉施設や学校等での発生が継続しているほか、会社・職場での集団感染事例が多く、割合も大幅に増加しているところでございます。

次のスライドをご覧ください。市内中心部、札幌駅、大通駅、すすきの駅の人流、すな

わち人出の状況についてのスライドでございます。夜8時時点の状況でございますが、緊急事態宣言を延長した6月直後、人出に増加が見られておりまして、今はそのレベルで留まっている状況でございます。

では、最後のスライドをご覧ください。このグラフは同じく札幌駅、大通駅、すすきの駅の朝9時時点の人流でございますが、6月以降、札幌駅付近の人流に増加が見られておりましたが、最近ではほぼ横ばいの状況ございまして、これは市民の皆様の協力により人と人の接触を抑え続けている効果といえるというふうに考えてございます。

札幌市では、さらに新規感染者数の減少のための取組や、医療提供体制の負荷を減少させる取組について、継続する必要がある状況にあるというところでございます。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に各部、各振興局から、順次発言をお願いいたします。

石狩振興局長、お願いします。

【濱田石狩振興局長】

発言に先立ちまして、5月からの当管内におけます感染者の急増による江別、千歳両保健所の業務の増加に際しましては、本庁各部などからも多くの職員を派遣いただくとともに、事務スペースの確保としてプレハブの設置や通信機器の確保などにも大変なご協力をいただきましたことに、この場をお借りしてお礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

それでは資料4に基づいて説明させていただきます。石狩振興局管内の札幌市を除く感染状況につきましては、1日の新規感染者数が5月のピーク時の127人から昨日は3人と、今週に入ってからは一桁台にまで減少しておりますほか、10万人当たりの1週間の感染者数も、ピーク時の130人から17.1人と減少しているところでございます。

また、5月以降に相次いで発生しました社会福祉施設の集団感染に伴い、各市や町に設置しました現地支援対策本部も今月上旬6ヶ所から現在は3ヶ所となっており、これらの施設におきましても徐々に療養を終えた人が増えてきております。

次に人流抑制に向けた取組についてでございますが、緊急事態宣言のもと、人と人との接触機会を減らすため、特に週末の人流を徹底的に抑える取組を管内の市町村と連携して実施してきておりまして、具体的には通勤・通学などで多くの住民が利用するJRの主要4駅におきまして、振興局の職員がメッセージボードを持ち、利用者に注意喚起を行う取組や、人通りの多い市街地や大型商業施設の周辺を広報車で巡回しながら外出自粛を呼びかける取組を毎週末実施してきておりますほか、飲食店における現況確認を行ってまいりました。

また、先週からの新たな取組といたしまして、今年度の新規採用職員がチームを組み、感染拡大防止に向けた啓発動画を自ら企画・撮影・編集しました石狩振興局ニュースを、北海道庁インターネット放送局Hokkai・Do・画で配信し、多くの皆様にご覧をいただいておりますほか、外出自粛によるお家時間を楽しく過ごしていただけるよう、札幌大谷短期大学と連携し、子育て世代に向けたもの作りの情報発信を振興局のFacebookを通じて開始したところでございます。

石狩振興局といたしましては、管内の感染状況がまだまだ予断を許さない状況にありますことから、引き続き緊張感を持って、市町村と緊密な連携を図りながら、感染拡大防止

に向けた取組を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、後志総合振興局長、お願いします。

【天沼後志総合振興局長】

資料5に基づきまして、小樽市における感染拡大防止の取組等を中心にご説明させていただきます。

初めに、後志管内における感染状況についてでございますが、6月15日現在の直近1週間の新規感染者は25人で、うち小樽市については22人となっております。5月25日時点の120人をピークに減少傾向が続き、市の1日当たりの新規感染者も一桁台が続いているところでございます。また、集団感染事例につきましても、今月初旬に市内の市場で10名の感染者が発生いたしました。その後新たな事例は発生しておりません。

なお、小樽市を除く管内町村部におきましては、直近1週間の新規感染者が一桁まで減ってきておりまして、昨日までの直近4日間は新たな感染者は発生しておらず、管内市町村はもとより、関係団体と多くの皆様にご協力いただき、新規感染者が減ってきているという状況であります。

次に、中段でございますが、小樽市における取組についてであります。引き続き、平日は市の消防車7台、土日は振興局の広報車を加え9台で巡回啓発を実施しております。また、振興局ではこうした巡回啓発と合わせて、小樽駅周辺など小樽市内の観光地や商店街におきまして、休日の日中を中心に人流の把握に努めてきたところでありまして、これまで多くの人出や混雑は確認できておりませんが、今後とも感染状況などを踏まえながら、こうした現地状況の把握に努めてまいります。その他にもコミュニティFMや防災行政無線、市長メッセージ発信などによる啓発に加えて、新たに市役所入口および窓口におきまして、デジタルサイネージによる啓発を行ってきておりまして、あらゆるツールを活用して市民の皆様に対し、接触機会の低減などを呼びかけているところでございます。

また下段に記載ありますけれども、ワクチン接種の取組状況についてでございますが、小樽市におきましては、6月26日から大型商業施設で計4,000人の集団接種を計画しているほか、職域接種につきましても、小樽市内をはじめ後志管内の複数の企業等が申請をしている状況でございます。

今後も引き続きまして、地域全体で危機感を共有し、各市町村や関係団体と緊密に連携しながら、気を緩めることなく、人流の抑制など感染防止対策の徹底を継続してまいります。

報告は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

上川総合振興局長、お願いします。

【佐藤上川総合振興局長】

資料6をご覧ください。まず、管内の感染状況でございますが、特定措置区域であります旭川市では、先ほどの資料にもございましたけれども、新規感染者は5月下旬をピークに大きく減少しております。ここ数日一桁台が続いておりまして、昨日6月15日までの週

10万人当たりの新規感染者数は7.7人となっており、住民や事業者の皆様のご理解とご協力が、こうした感染減少に繋がっているものと大変感謝をしております。

医療提供体制に関しまして、現在、旭川市内の5つの基幹病院では、コロナ対応の病床を増床することによって最大限の入院体制を確保していただいているところがございます。最近の新規感染者の減少により、病床の使用率につきましても、一時期7割を超えていた状況と比べ、昨日現在で36%と低下しております。

続いて、主な取組の状況でございます。以前ご報告いたしましたが、道北圏で2棟目となる宿泊療養施設、こちら写真の方を掲載してございますが、東横イン旭川駅前1条通り、こちらの方を6月3日から運営を開始いたしました。この間、旭川市に大変ご尽力いただき、円滑に運営されております。自宅待機者、こちらの方もほぼ解消をできているところがございます。引き続き、空知、留萌、宗谷の各振興局からのご協力をいただきながら、地域の医療提供体制の確保、また、住民の皆様ご安心安全のため、施設運営にしっかりと取り組んでまいりますので、今後とも、本庁感染症対策本部指揮室をはじめ、皆様方ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

このほか、振興局といたしましては、旭川市長との共同メッセージ動画による呼びかけや、毎週末、旭川市と共同で広報車を活用した注意喚起といった広報活動、また、飲食店への対応といたしまして、市内の飲食店等に対する見回り調査に基づく現況確認、管内市町村などと連携して飲食店に向けた周知啓発など、愚直ではございますけれども、継続して取り組んでいるというところでございます。残る緊急事態宣言の期間におきましても、当たり前前を当たり前前にやり切っていくんだという考え方に立って、市町村や関係団体と連携した取組を徹底してまいります。

上川からは以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

その他、各部、振興局等からご発言あればお願いいたします。

それでは、本部長からお話をお願いいたします

【本部長（知事）】

6月20日の緊急事態宣言の期限まであと4日となりました。5月16日の発令から、ちょうど1ヶ月が経過をいたしました。本日の速報では、新規感染者数は88人ということで、10人当たり14.77ということですので、4月22日以来、55日ぶりに国のステージⅡの水準まで減少したという状況になります。これまでの道民の皆様、事業者の方々の多大なるご理解、ご協力に対しまして、深く感謝を申し上げます。

しかしながら、本道の医療体制におきましては、国のステージⅣの水準50%、これを下回っているものの厳しい状況が続いております。特に、札幌市内については、新規感染者数は、こちらは本日でございますが、10万人当たりでいうと25.9、約26人という状況になっていまして、緊急事態宣言の目安となる水準が10万人当たり25人でありますので、こちらを上回っているというほか、病床も満床に近く、医療提供体制の危機的状況が続いているところであります。

この緊急事態宣言の期間中、残り4日間、もう一段、新規感染者数を減少させていかなければなりません。人と人との接触機会を低減をするため、できる限り外出を控えていただく、このことについて、改めてのご理解、ご協力が必要であります。6月20日までの期間、市町村と連携をし、対策をより徹底を図るように指示をいたします。

そして、ワクチン接種についてであります。道が設置をした北海道ワクチン接種センターにおいて、今週末の19日から接種を開始いたします。また、職域接種についても、先ほど報告ありましたが道内において、申請が62件ということであります。

ワクチンを取り巻く状況が大きく変化をする中、国においては、11月までに希望する方への接種を終えたいとしております。引き続き、市町村に対するきめ細かな支援を行いながら、道のワクチン接種センター、こちらの効果的な活用、そして、職域接種の動きの後押しなど取組をしっかりと進めて、ワクチン接種を希望する方が1日も早く接種を終えることができるよう万全の体制で臨むように指示をいたします。

最後に、6月21日以降の対応についてであります。道内全体の新規感染者数は、国のステージⅢの目安となる10万人当たり15人を下回ったと先ほど申し上げました。確保病床の使用率は、国のステージⅣの目安となる50%を下回っているということも申し上げました。感染状況は、大きく改善をしております。

一方、札幌市においては、依然として、国のステージⅣの目安、10万人当たり25人という指標を超える水準になっている。大変厳しい水準にあります。札幌市とその他の地域の感染状況が大きく異なっている状況にあります。人口の3分の1を占め、医療機関など都市機能が集積をしている本道の中心都市である札幌市の感染状況は、本道全体にも大きく影響いたします。

21日以降については、こうした全道の感染状況、札幌市の対策の重要性などを十分に踏まえ、新規感染者数の減少をより確実なものとし、医療への負荷の低減につながるよう、適切な対策を検討し、国との協議を進めていくように指示をいたします。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示があったことにつきまして、各本部員は必要な対応を行ってください。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第59回本部会議を終了いたします。

(了)